

第4回長井市食育推進計画策定推進委員会

【日時】2024/02/14 10:00～11:30

【場所】庁議室

【出席者】

◆委員：小野卓也委員、鈴木よう子委員、横山小市委員、井上恵委員、菅野春平委員、伊藤浩呉委員、安部香織委員、佐藤朋江委員、尾形良一委員、坂本晃一委員、宇都久美子委員

◆事務局：赤間産業参事、健康スポーツ課安江栄養士、福祉あんしん課安達補佐、給食共同調理場安倍補佐、消費生活センター嘉藤相談員
農林課 梅津課長、石塚補佐、小林係長、丸山

【欠席者】総合政策課ス波主査、子育て推進課佐藤係長、学校教育課黒澤指導主査、地域づくり推進課吉川補佐

【議事録】

1 開会 進行：石塚補佐

2 委員長あいさつ

皆さんおはようございます。今日もお忙しいところ、都合をつけてお集まりいただきましてありがとうございます。第4回ということで、今年度4回の会議がございましたが、委員の皆様方、事務局の皆様方には頑張って都合をつけてきていただき、ただ集まっただけでなく、このたび特に一人一人、それぞれの立場からのご意見を賜ったことで、計画も前の計画よりもより良く、また実効性のあるものになったのではないかと思います。今日は総仕上げということで、どんな形でこの計画をまとめたら良いかという話し合いなので、最後までどうぞよろしくお願いします。

3 事務局説明

説明に入る前に事務局より本日の議事録を作成し、ホームページ等で公開させていただく旨を説明し了承を得る。

(1) 前回委員会の振り返り・・・事務局より説明

4 協議

(1) 第3回策定推進委員会以降の加筆・修正箇所について 事務局より説明

(2) 第3次計画（案）の全体について・・・事務局より説明

【質疑・意見等】 (2) 第3次計画（案）の全体について

○委員

基本目標2のところでいろいろ取り組みがあつて、数値目標の3番から6番まで結果としての数値目標を設定したようだが、6番のようにメタボに注意しましょうということで、例えば、血圧とか病気とかそういったものも結果として出ていると思うのでもう少し数値として挙げたら良いのでは。例えば小中学生だと、全国の標準身長体重に対して、確か山形県の中学生在が下回ったというのがあるので、長井市はどうなのかと。食育だけで改善できるのかという問題もあるが、小中学生の身長体重や、学校を休む理由はいろいろあると思うが、体調不良が少なく

なったとか、そういうのを数値として結果としてあった方が、取り組みの中での成果としても少し見える形になるのでは。

成人についても、メタボに関してせつかく塩分摂取量7.5g未満と書くのであれば、長野県は確か脳溢血の死亡率、全国ワースト1だったかと思う。どういう取り組み結果かは忘れてしまったが、全県的に取り組んだ結果、改善されてワースト1は違う県に変わったというのがあったので、メタボだけではなく、成人の場合は、脳溢血の死亡率、塩を適塩で取ることによってどう変わりましたとか、または、全国の平均寿命に対して山形県、長井市は比較してどうですかというような結果としての数値など、目標項目に載せなくてもいいと思うが、その結果として表す数字があった方がいい。

○委員長

まず子どもに関するデータについて、基本目標2の中では子どもに関するデータはアンケート結果しか入っていないが、もう少し健康に関するデータは学校でとっているのも、そういったものをこの数値目標として入れたらいいのではないかということ、もう1つは原因というのが1つのキーワードということであれば、メタボだけではなくて、その原因に関するデータという形で示すと良いのではないかということだが。

○事務局

減塩の目標も新たに立ててはどうかということ、メタボリックシンドロームだけではなく減塩の部分もというご意見をいただいた。塩分摂取量は高血圧以外にも様々な病気を引き起こすところもあるので、メタボリックシンドロームという大きな括りでさせていただくというのが一番結果も取りやすいかと思う。塩分だけだとどこからそういう数値を持ってくるか今ちょっと思いつかない。

○委員長

今の提案では、脳溢血というのがあった。これはデータとしてはどうか。

○事務局

データとしては成人担当に確認の必要がある。長井市のデータがどう変化してるかは、取れるのかどうか今即答はできない。成人担当の方に持ち帰って確認する。

○委員長

目標としてメタボもそうだが、これを下げるとするのはそんな簡単なことではないと思っているが、数値としてここに挙がっているということは、今現状ではこういう状態なんだということをもみんなに知ってもらうためにはいいデータだと思うので、下げられるかどうか別にして、あれば入れた方がいい。

○事務局

確認する。

○委員長

あと、子どもの健康に関してはどうか。各学校保健委員会では、各学校で養護の先生がデータを出しているの、山形県の平均とか、長井市の平均とか、全国平均と比べた場合、この学校ではこの部分がちょっと弱いみたいな話はよくある。数字としては各学校で取っているが、それを市で統合してはいないのか。学校教育課でそういったデータをまとめたりはしているか。

○事務局

今、他の計画もいろいろ作っているの、即答は出来かねるがそちらの中にあるかどうか調べてみる。

○参事

ただ、食育計画の中では、どこまで範囲を広げるかというのは難しい問題である。子どもの体格とか、そういったことまで含めていくのか、それとまた別に、学校や健康福祉の方の計画の方に挙げていくのか、その線を引かないとどこまでも広がってしまう恐れがあるのでまとめづらくなる。

○事務局

健康スポーツ課の方は3歳児健診までのお子さんが対象となるので、小中学生となると中々データがない。健康増進計画も健康スポーツ課で作成していて、そこと食育計画と健康増進のところでどこで線引きするかというところ。

○委員長

他のところで何か何らかの形でカバーされているのであれば、ここで取り入れても重複してしまうので、確認していただいて、重複がなく他でやってないようなことがあればここに盛り込んでいただくということでしょうか。

○参事

事務局側で調査させていただいて、どちらかに載っていれば、それはそれでよしとさせていただきたい。

○委員

今の話と重複するところが出てくるが、最初の1回目の会議の時に、食育推進の最終的に現れてくるものは、健康寿命と平均寿命という数字があるのではないかとグループワークで話したように思うが、その時今と同じように、健康スポーツ課との課題があるので、それを数値目標として上げるかどうか検討したいという話があったので、今回出てきたご意見を検討する際に、一緒に健康寿命や平均寿命を伸ばしていくという形で、もう数字は出ているはずなので載せようと思えばすぐにもう載せられる数字であるのでご検討いただきたい。すぐに市民も見えてくる。

○委員長

寿命が一番わかりやすい数字で関心も高い。健康であればそれだけ伸びるということにもなる。伸びているはずだがこの寿命についても、他の計画との兼ね合いと、データとして記載するかどうか。

○参事

食育の目標になるかどうか別として、資料的にそういったデータが載っていれば、5年後もまた比較できるようになる。載せ方については検討させていただきたい。

○委員長

今のお話だと、健康寿命平均寿命の話やそれから脳溢血の割合というものは、目標として挙げないとしても、参考データとして書いておくというのは、関心を高めるのに大変良い。もし重複していたとしても、そういう形で載せるのであれば何か意味はあるのではないかな。

○委員

塩分のところだが、資料で「日本人の食事摂取基準2020年度版」より女性が6.5g、男性が7.5g未満と書いてあるが、現在山形県の塩分摂取量は女性は10.5g、男性12.4g未満だと思うが、だいたい山形県だったらこれぐらいの摂取量だからこの分だけ減らそうとか、そのようなことを示せばいい。例えば山形市はラーメン日本一になったということだが、ラーメンのスープで大体このぐらい塩分が入っていますよなど、明確にした方がいいのではないかな。さっき話題となった健康増進の平均寿命というのは、私は健康増進計画策定委員会にも出させていただいてるが、そちらに明確に謳ってある。だからそれも大切だが、まず食育

であれば、ただ目標じゃなくて、現状を謳ったほうが良いのではないかな。

○委員長

ただ目標だけではなくて現状どうなっていてその差がどれぐらいあるのかというところを見せることが大事だということだったが、いかがか事務局の方。

○事務局

今回県の調査もあって今速報値しかまだ出ていない状況だが、令和6年度にはしっかりしたデータが出てくると思う。

○委員長

今のはコラム的なところに載せるものとしてなので、最新のデータというわけじゃなくて現状の最新ということ。

○事務局

4年に1度、県の調査があるが、コロナ禍でできなかった部分があり、ようやくできたものが数値として今速報値で出ているが、まだ明確な数字ではないが手元には数値が来ているので、市民の皆様にも令和6年度にはお見せはできる。

○事務局

健康課の健康増進計画とのすり合わせもしながら、コラムもこれから作成というところもあるので、そういったお知らせも入れていきたい。

○委員

すごく細かいが、21ページの基本目標4のところについて、伝統的な料理というのはわかるが、作法で独特のものというのはあるのか。

○委員長

このアンケートの聞き方がそういう聞き方だった。何を意図してこの作法を聞かれているのか。

○事務局

アンケート項目として入れさせていただいたこの表現は、県でとっていたアンケートの中に入っていたものでそのまま使用している。いろいろと食育に関する講演会などお聞きすると、今は和食を食べるにも左側にご飯を置くこともわからない子どもたちがいるという現状で、家でも教えてなかったりして配膳ができない状況になってきているということを言われていた。そういった和食の食べ方や、箸の持ち方も含まれると思うが、そういうものも含めての質問と解釈している。一定の年齢以上の方には当然のことが、今は大分できなくなってきているという現状があるようなので、そういうところも伝えていければという意味でのアンケートと思っている。

○委員

そのような意味合いならわかるが、“伝統的な作法”と読み取ってしまった。伝統的な料理、例えば日本料理の作法というのか、そのようにとらえた。前の“伝統”に繋がらないような書き方がいい。

○委員長

“伝統的な作法”というと、何とか流とか思われて「そんなことはしていません」と答えてしまふといけないので、“伝統的な”にかからないようにするには「作法や伝統的な料理など」や「食事の作法や」というような、意図したデータがとれるように誤解のないように聞き方も工夫したほうがいい。

○委員

35ページの「料理をしよう」という文章だが、これを読んで料理は練習するものなのかなと疑問に思った。「料理を練習したり」じゃなくて、「料理に挑戦したり」とか。例えばスポーツのように、同じことを何遍も何遍もやるのではなくて、下手でもいいからいろんなものに挑戦していく。何回も台所に立っているうちに料理は上手になっていくものだと思っているので、練習という言い方だと、同じものを何回も作る意味合いに取ってしまう。

○委員長

していない人にとっては「挑戦」。あと、テキトーに作っている人はやらないよりは良いということ。挑戦の方が何となく良い。とにかく、やってない人がやってみましょうということ。

○事務局

これはやってない人にやって欲しいという意味合いで載せている。普段やってる方に対してというよりは、やっていない方。「挑戦」がいいのかなと。

○委員

「チャレンジ」の方が表現として良い。

(3) 今後のスケジュールについて・・・事務局より説明

【質疑・意見等】 (3) 今後のスケジュールについて

○委員長

今後のスケジュールにつきまして、まず、来年度もこの委員会が開催されるということで、各団体の代表としていらっしゃってる方は、代表が変わった場合には、代わりの方に来ていただくということになる。また案内がいくと思いますのでよろしくお願いします。

それから配布というのは、いろいろコラムとかデータを入れるのはいいが、それをウェブで公開してそれで終わりにする、そんな気がする。その辺りいかがか。

○事務局

印刷は200部ほど予定をしている。配布先は関係する団体や機関がメインになる。あとはウェブのホームページでも公表をさせていただく予定である。

○委員長

例えばどういったところか。

○事務局

例えば前回、市内の保育施設やコミセン、委員の皆さんの団体などにも送っていた。これから連携したいようなところには、特に送らせていただきたい。

○委員長

マンパワーの都合もあると思うが、大体こういうものがドサッと送られてきても、1ページも見ないでそのままファイリングされてしまう。その辺に置かれてしまうので、できれば特に力を入れたいところは、担当の人が行って、こういうものができまして、お時間いいでしょうかということで、ばらばらと説明して特にここからよろしくお願いします、くらい言ってきてもらった方が、後から見てもらえるのではないかなと思うが、せつかく時間を取ってもらって作ったので、その辺に置いておかれる計画にしたくないという思いがある。

○参事

これからの検討だが、もし機会があれば、あやめレポに特集として食育だけになるかどうか、健康面も含めてやるかわからないが、その機会があれば、ぜひそういうものを使ってお知らせしたい。

○委員長

計画がまずあるということをほとんど知らない。まず、そういう計画があるんだということだけ知ってもらえるようにすればまず合格ということをお願いしたい。

(4) その他

【質疑・意見等】 (4) その他

計画策定に関わっての感想を各委員にいただいた。

5 その他

特になし

6 閉会

以上